

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム おおきな家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3-20 (電話) 0123-88-1610		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月8日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(平成 22年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15年 3月 28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	24 人	常勤 4人、	非常勤 20人、 常勤換算 10.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺き 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:12,000円 暖房費:5,000円(12~3月)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	15 名	男性 2 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.3 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立長沼病院、土岐歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長沼町の住宅街にあり、田園地帯に囲まれた自然豊かな場所に位置する1階建て2ユニットのグループホームである。敷地内には小さな畑や2ホールほどのパークゴルフコース、東屋などがあり、利用者や地域の方が楽しむことができる。管理者や職員は利用者にやさしく礼儀正しく穏やかに接しており、利用者やご家族を大切にしている姿勢が伺える。共用空間は落ち着けるソファを配置したり、行事の写真、小鳥や花、空気の清浄など数多くの心配りが感じられる場所となっている。音楽療法や日本舞踊のボランティアの受け入れ、通院の支援など多機能性の面も充実しており、食事の面でも彩りや品目の豊富な食事が提供されている。町や医療機関との協力体制も整っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、職員の研修参加、同業者との交流、介護計画の家族の同意、などの項目を具体的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は検討の会議に一部の職員が参加し意見をまとめているが、ガイドブックなどは利用されておらず理解や取り組みが十分とはいえないので、全職員の参加による自己評価への取り組みと、ガイドブックを活用した評価の理解向上を期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、町や地域包括支援センターの職員、地域の代表者、利用者家族、法人代表などが参加して、運営報告のほかサービス評価、地域活動などをテーマに意見交換しているが、開催回数は年に2回程度に留まっているので、事業所の年間計画に運営推進会議を組み込み開催回数の増加を期待するとともに、毎回のテーマについても計画的に設定され、より意義のある会議になるよう期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に参加する家族に意見を聞き、災害時のアドバイスももらっている。家族来訪時の雑談の中からも意見を聞いている。玄関にアンケートと回収箱を設置し、重要事項説明書に事業所と外部の苦情申し立て窓口を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に参加し、子供御興やごみ拾い、花一杯運動などに参加している。ホーム前の敷地が地域の方のスーパーへの通り道になっており、普段から地域の方と会話ができている。また、音楽療法や日本舞踊のボランティア、中学生の職業体験などの訪問を受けている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念を「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「みんなとともに」と定め、最後の「みんなとともに」の中で地域との関わり合いの意味を込めているが、十分に表現されていると見るのは難しい。		「みんなとともに」の前に「地域」や「家族」などの文言を加え、地域密着型サービスとしての理念をより明確化されるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念をパンフレットに記載し、食堂など共用部分に掲示している。職員は理念の中の「ゆったりと楽しく」などの文言を意識しながら、利用者の個性を尊重して日々の介護にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、子供御輿やごみ拾い、花一杯運動などに参加している。ホーム前の敷地が地域の方のスーパーへの通り道になっており、普段から地域の方と会話ができている。また、音楽療法や日本舞踊のボランティア、中学生の職業体験などの訪問を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は検討の会議に一部の職員が参加し意見をまとめているが、ガイドブックなどは利用されず理解や取り組みが十分とはいえない。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、職員の研修参加、同業者との交流、介護計画の家族の同意、などの項目を具体的に取り組んでいる。		全職員の参加による自己評価への取り組みと、ガイドブックを活用した評価の理解向上を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、町や地域包括支援センターの職員、地域の代表者、利用者家族、法人代表などが参加して、運営報告のほかサービス評価、地域活動などをテーマに意見交換しているが、開催回数は年に2回程度に留まっている。</p>		<p>事業所の年間計画に運営推進会議を組み込み開催回数の増加を期待するとともに、毎回のテーマについても計画的に設定され、より意義のある会議になるよう期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加するほか、事業所職員が「長沼町地域ケア会議」や「長沼町サービス調整連絡会議」に複数人数で参加しており、会議で情報を得たり、運営に関して相談したい点があればいつでも相談できる関係にある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時にその都度利用者の状況を報告している。利用者ごとの個別のホーム便りを毎月作成して家族に送付しており、職員の交替も報告している。また預かり金のある利用者家族には金銭出納報告も定期的に行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に参加する家族に意見を聞き、災害時のアドバイスももらっている。家族来訪時の雑談の中からも意見を聞いている。玄関にアンケートと回収箱を設置し、重要事項説明書に事業所と外部の苦情申し立て窓口を明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職はなるべく少なくなるよう努力しており、離職がある場合は利用者のダメージを防ぐよう辞めることを伝えないようにしている。また引き継ぎ期間を設けたり、職員全体でカバーしてダメージを防いでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	道や地域包括支援センターなどが主催する外部研修や町のケアマネ勉強会に複数の職員を参加させており、各職員が年に2～3回程度は外部研修などに参加できている。研修実施後はミーティングで研修報告も行われている。また、職員には介護福祉士などの資格取得も奨励し、複数の職員が受験している。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者は町内の介護関連事業者の会議に参加したり、札幌や夕張のグループホームの見学に訪れて同業者と交流する機会を持っている。一方、職員も外部研修の参加や町内の介護関連事業者同士の会議で同業者職員との交流機会を持っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者は利用開始前にホームを見学を訪れ、納得した上で利用を決めている。隣接するデイサービスの利用者が入居するケースが多く、事前に馴染みの関係を築いているため、利用開始後もすぐにホームでの生活に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	調理の際の材料の活かし方や昔の話、戦争の話などを職員が利用者から教わることも多い。また、介助の際に感謝の言葉をかけてくれたり、散歩の際に花や景色を見て一緒に感動したりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を言葉で表わすのが困難な利用者も表情や仕草などから希望を把握できている。一方、利用開始時にアセスメントシートを作成し課題分析を行っているが、生活歴や嗜好などの情報の蓄積は十分とはいえない。</p>		<p>アセスメントシートの書式や利用開始後に得られた情報の蓄積方法を工夫し、利用者の思いや暮らし方の希望をより細かく把握できるよう取り組みを期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>新規の介護計画は病院や外部のケアマネジャーから情報を収集し、日常生活動作、病歴、生活歴などの基本情報を作り、利用者や家族の希望を入れて介護計画を作成している。課題などはカンファレンスに諮った上、家族の来訪時に内容を説明し、同意書に押印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>新規の見直しは利用者の状態によって1～3ヶ月の間に、定期的な見直しは3ヶ月ごとに見直している。モニタリングを行い、カンファレンスで評価して状態が安定している場合は継続計画としている。心身の状態に変化がある時は家族にも確認し介護計画を作り直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の送迎や買い物、美容室などの希望があれば個別に対応している。法人の特徴を活かし、隣接のデイサービス事業所の休日に場所を借りてボランティアの催し物を楽しんだり、同敷地の他事業所で行われている週1回の音楽療法にも利用者の定期的な参加を支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に協力病院に月1回の受診支援をしているが、入居前のかかりつけ医の継続受診の支援も行っている。専門的な他科受診にも職員が通院介助し、主治医との関係を築いている。必要な時は受診後に家族に連絡し、定期的な受診の結果は来訪時に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、重度化や看取りに対する事業所の方針を口頭で説明している。医療行為が発生する時は事業所での生活は難しいが、利用者、家族の希望に沿い、できるだけ看取り介護が行えるように対応している。昨年の外部評価で取り上げた事業所方針の文章化は継続して検討している。		事業所としての方針を法人全体で検討し、その方針に沿って家族と文章で同意を交わすような具体的な取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	代表は利用者を目上として敬うことを日常的に指導しており、職員は丁寧な言葉遣いに対応に努めている。排泄を察して誘導し、入浴の際には利用者の羞恥心を気遣って介助している。個人情報の書類などは事務所に保管し記録などの取り扱いに注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに沿って介助を行う姿勢で対応している。利用者の起床に合わせて朝食を用意し、入浴も利用者の要望に沿って支援している。散歩や事業所前のパークゴルフ場で遊んだり、百人一首や歌を楽しんだりしてゆったりと過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の好みを取り入れ、食材の品目を多くし、畑で採れた野菜なども添えて食事が楽しめるように配慮している。もやしの根とり、だしこんぶ切り、食後の下膳、食器拭きなどを職員と一緒にいき、職員はゆっくりと介助しながらともに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月～金曜日の午後と決めているが状況によっては土、日曜日でも可能で、状況に合わせて週に2回は入れるように支援している。順番などは利用者の中で暗黙のうちに決まっている。長湯を希望する時は体調を見ながら時間をかけて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、モップがけ、玄関の掃除、洗濯物畳みなどの役割があり、職員は生活の中で出来ることを引き出し一緒にしている。ボランティアの催し物や歌、ミニレクを楽しみ、夏季には外に出かけ、季節に合わせた外出行事を楽しみにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には近くにある2ヶ所の公園を散歩し、コンビニで買い物をしている。事業所前の東屋で寛ぎ、玄関前に椅子を並べて日光浴をするなど、車椅子使用の利用者も一緒に参加している。冬季は受診のほか、職員と一緒に車で大型店に出かけ食材選びを手伝っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に人感センサーを取り付けチャイムの音で出入りを把握しており、日中は鍵をかけていない。外玄関や内ドアの窓枠を大きくとり、ホール内のソファにゆったり座って外の景色が眺められるので、現在は黙って外に出る利用者はいない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年に2回実施している。自主訓練のほか、消防署の指導の下に、通報、消火、誘導など利用者也参加して避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練は行われていない。近隣住民には災害時の協力を依頼してある。		夜間を想定した避難訓練を行い、夜勤者のみでの通報や誘導する場面を作り、実際の動きの中で確認できるよう期待したい。また、事業所としての救急救命訓練を実施し、全職員が2年に1回程度訓練を受けられるよう期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは法人の管理栄養士が献立を作り管理している。利用者の状態によって食事形態を変えて提供している。食事は観察して把握しており、水分量は主治医の指導の下に数名のみ記録に取っているが、全員の食事量、水分量は記録されていない。		食事量、水分量を記録する書式を検討されているので、一日を通して全員の摂取状況を記録して把握する取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を多く取り入れた共用空間は全体的に明るい。居間のソファに座って外の景色を眺めながらゆったりと過ごし、小鳥や観葉植物を育てるなど生活感のある落ち着いた雰囲気である。トイレを改修し、また広い玄関ホールや廊下にソファやマッサージチェアを置き、外の景色や行事の写真を見ながら快適に過ごせるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口にスナップ写真と色違いの暖簾をかけて自室が識別できるように工夫されている。広さによって大きな仏壇や家具類を多く持ち込んでいる居室もあり、家族の写真、時計、塗り絵、花などが飾られている。洗濯物などで湿度を調整している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。